

2023年卒
Vol.8

6月1日時点の就職活動調査 <速報>

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年6月発行)

2023年卒業予定者の採用面接が今月1日に正式に解禁され、大きな山場を迎えている。コロナ禍で減退した採用意欲に回復基調が見られる中で、内定率はどのように変化しただろうか。6月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況を調査した。内定状況のほか多岐にわたる項目を調査したが、取り急ぎ主要指標のみ紹介したい。

1. 6月1日時点の内定状況

- 内定率は76.9%。前年同期実績(71.8%)を5.1ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の54.3%。前年(47.5%)を6.8ポイント上回る。継続者は45.7%

2. 内定保持学生の未決定理由

- 「本命企業がまだ選考中」(43.9%)、「自分に合うかわからない」(22.0%)の順に多い

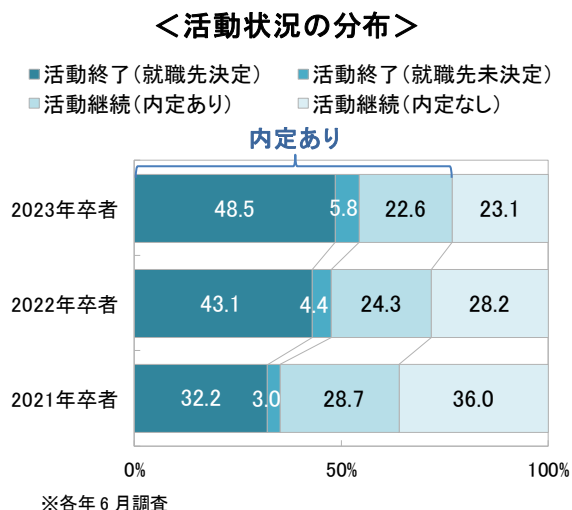
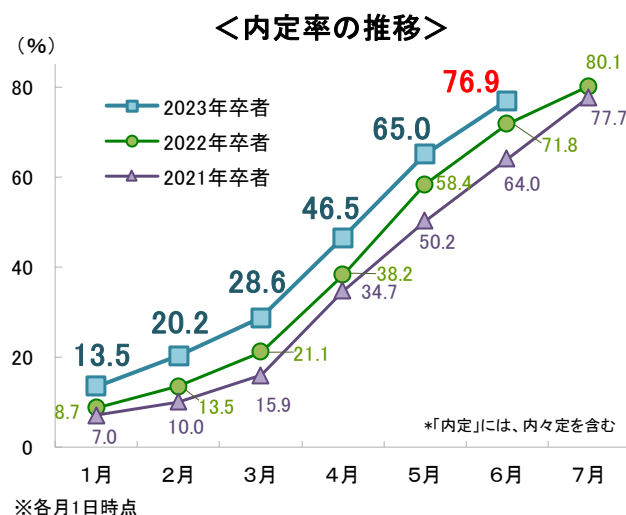
3. 未内定者の見通し

- 未内定者の7割(69.1%)は「内定の見通しが立っていない」

1. 6月1日時点の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は76.9%。先月調査(5月1日、65.0%)からの1カ月間で11.9ポイント上昇し、前年実績(71.8%)を5.1ポイント上回った。今期は序盤から高い内定率を記録。同じく高水準で推移した前年(22年卒)をさらに上回るペースで進行し、選考解禁のこのタイミングで7割台後半をマークした。ただ、4月以降、前年同月との差は徐々に縮まってきている(8.3ポイント差→6.6ポイント差→5.1ポイント差)。

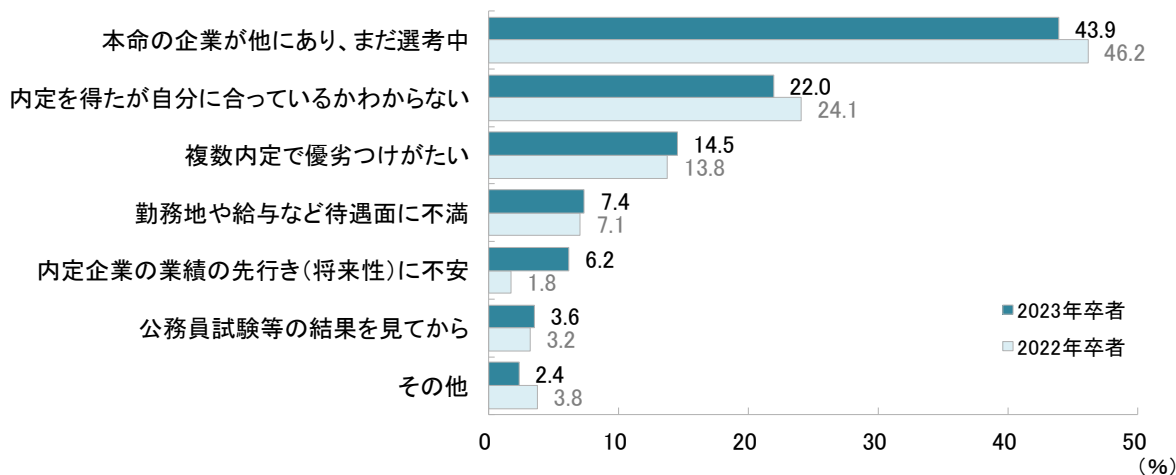
調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合はモニター全体の48.5%。複数内定を保留しているなど未決定である者(5.8%)を合わせると、終了者は54.3%となる。前年同期(計47.5%)より6.8ポイント上昇した。活動継続者は「内定あり」(22.6%)、「内定なし」(23.1%)を合わせて45.7%。



2. 内定保持学生の未決定理由

内定取得学生のうち就職先を決めていない者（モニター全体の 28.4%）にその理由を尋ねると、最も多いのが「本命の企業が他にあり、まだ選考中」という回答で（43.9%）、本命企業の結果次第という状況だ。「自分に合っているかわからない」（22.0%）、「複数内定で優劣つけがたい」（14.5%）と続き、内定は得たものの承諾を迷う学生が一定数いることがわかる。上位 2 項目は前年調査よりポイントがやや下がり、代わりに「内定企業の業績の先行きに不安」が増えた（1.8%→6.2%）。

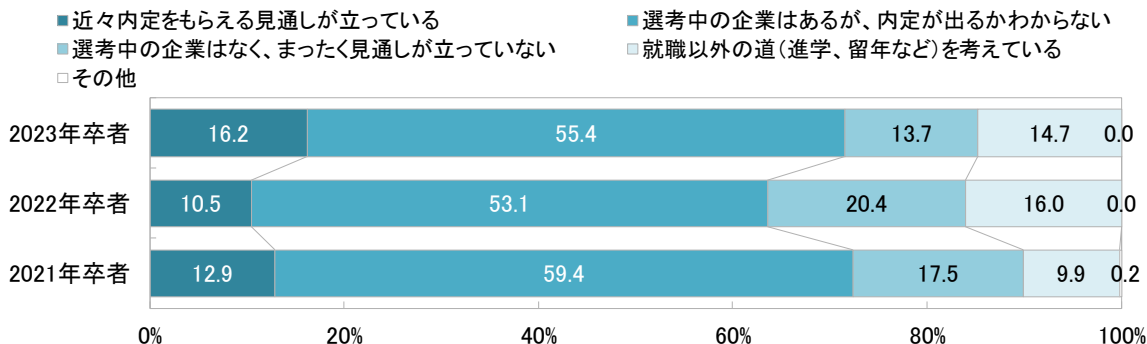
<内定保持者が就職先を決めていない理由>



3. 未内定者の見通し

未内定の学生には内定獲得の見通しを尋ねた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」は 16.2%で、前年同期（10.5%）を上回る。ただ、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定が出るかわからない」（55.4%）で、ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」（13.7%）を足し合わせると 69.1%になり、未内定者の約 7 割が先の見えない状況にあるようだ。高水準の内定率の一方で、厳しい状況の学生も見られる。

<未内定者が内定を得る見通し>



調査概要

- 調査対象 : 2023 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生（理系は大学院修士課程 2 年生含む）
- 回答者数 : 1,208 人（文系男子 401 人、文系女子 370 人、理系男子 297 人、理系女子 140 人）
- 調査方法 : インターネット調査法
- 調査期間 : 2022 年 6 月 1 日～5 日
- サンプリング : キャリタス就活 2023 学生モニター